甲子園に吹奏楽部 ルーツ日大三高？

64年前「一つ勝ったらご褒美に吹奏楽部を呼んでやろう」

今夏の全国高校野球選手権大会も、吹奏楽部の応援がスタンドを盛り上げた。ルーツを新聞記事などでたどると、1952年、第34回全国高校野球選手権に出場した日大三高（東京）にたどりつく。当時の吹奏楽部員に思い出を聞いた。

52年8月16日、長野県の野尻湖畔。合宿中の吹奏楽部のもとに、同高の鎌田彦一理事長から電報が届いた。甲子園で野球部が1勝したので応援に来るように、という内容だった。

「その日の夕方、上野行きの夜行で帰京。17日の夜行で大阪方面に向かいました」。当時3年生で部長だった本間昭男さん(82)は振り返る。部員30人と顧問の若林文先生が列車に楽器を積み込んだ。

試合開始は18日午前9時。同日付朝日新聞夕刊で「一塁側日大応援団は（中略）ブラスバンド入りの応援で気勢をあげ」と紹介された。本間さんは「高校生バンドで、しかも指揮は珍しい女の先生だったから、新聞記者が何人も写真を撮りにきた」。

これが最初の吹奏楽部の応援だったのか。

公式記録があるわけではないが、スクールバンドの歴史に詳しい藤村女子中学・高校（東京）の都賀城太郎さんによると、15年の第1回大会で優勝した旧制京都二中(現・鳥羽高)を同中の楽隊部が応援した、という説があるという。ただ、応援の様子を記した当時の新聞記事に楽隊部は登場せず、学友会誌にも野球応援の記述は見あたらない。

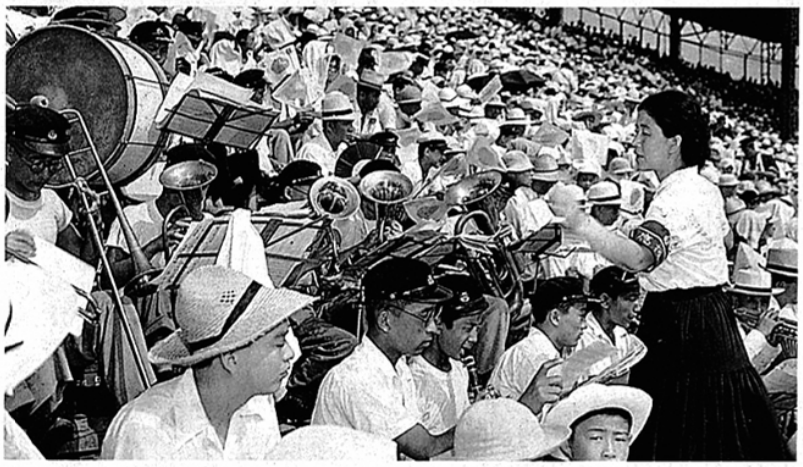
19年の第5回大会からは、太鼓などの「鳴り物入り」の応援が禁止に。当時は応援の過熱が問題になっており、26年には応援団も認められなくなる。

応援団の禁止規定が消えたのは、終戦7年後の52年。前年にサンフランシスコ講和条約が結ばれて日本が国際社会に復帰、祝祭ムードに包まれていた。さっそく大阪代表の八尾高応援団が、当時の大阪警視庁音楽隊の「出動」を要請。その直後、スクールバンドの日大三高吹奏楽部がスタンドに現れた。

同部は、前年秋に神宮球場で開かれた野球大会で演奏した経験があった。フルートを担当していた鈴木康友さん(81)は「それを野球好きの理事長が喜び、甲子園で一つ勝ったらご褒美に吹奏楽部を呼んでやろう、となったようです」。

鈴木さんは甲子園での演奏を、「球場が大きいので、自分の音が聞こえなくて困った」。テューバの担当だった本間さんも「暑くて、かち割り氷にサイダーを入れて飲みながら演奏した」と振り返る。

その後、吹奏楽部の応援はすっかり定着した。野球部員と吹奏楽部員の恋を描いた映画「青空エール」も公開されている。（魚住ゆかり）



上野尻湖の合宿から甲子園へ応援に出発する直前の本間昭男さん（左）と鈴木康友さん＝鈴木さん提供

下第34回全国高校野球選手権大会第6日の第1試合、対長崎商戦のスタンドで演奏する日大三吹奏楽部と、指揮をする若林文先生＝1952年8月18日、阪神甲子園球場